

隨泉寺寺報

平成18年(2006年) 2月号 第426号

☎082-892-0217 <http://www.ttec.co.jp/~zuisenji/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺 仏婦講座

講師 徳正寺住職 徳正 尊丸師

講題 「人生の中心軸」

『庭上一寒梅 笑侵風雪開 不爭又不力 自占百花魁』(庭上の一寒梅、笑って風雪を侵して開く。争わず又つとめず、自ら占む百花のさきがけ)』

新島 襄

今年近年に無く寒い冬です。しかし春は間違いなくそこまで来ているのでしょうか。もう梅の花が咲き始めたと新聞に出ていました。梅の花は寒い冬をじっと耐えて百花の魁として咲き始めます。同志社大学の創始者 新島襄の歌に「庭上の一寒梅 笑うて風雪を冒して開く 争わずまた努めず 自ずからしむ百花のさきがけ」というのがあります。梅の花を見るといつもこの歌を思い出します。実家の母が好きでいつもこの歌を吟詠していました。競争して一等になって咲き笑うのではなく、誰と競うではなく、無理をするのでもなく、やがて咲き誇る春の花々のさきがけとなる梅の花。新島襄がそれに深く心を寄せたように、私も思いがけず出遭った梅の見事さに心を奪われます。



2月の法座予定

- 2月 7日.....ダーナの日
- 2月12日.....掃除 長者原東
- 2月14日 昼席午後1時より.....仏婦講座
- 2月14日 夜席午後7時半より.....出張法座 長者原東 幸村 賢様宅
- 2月15日 朝席午前10時より.....仏婦会員追悼法要 おとき
- 2月15日 昼席午後1時より.....仏婦講座
- 3月 2日 午後6時より.....門信徒会本部役員会

☆ 第46回仏婦講座

2月14日・15日と第46回仏婦講座を開催します。15日の朝席は物故会員の追悼法要を勤めます。今年は9名の方がお浄土に還られました。いづれもなつかしい方々です。生前を偲びながら大切に勤めさせていただきます。

- 吉岡 シズ子 76才 平成17年4月2日 佐々木 正子93才 平成17年9月5日
- 吉田 時世 83才 平成17年10月27日 荒野 ミサコ 79才 平成17年10月30日
- 吉田 一二三 92才 平成17年11月17日 竹下 トキミ 88才平成16年11月16日
- 和田 敏子 62才 平成17年12月19日 佐々木トミコ 87才 平成18年1月4日
- 黒川 みつ 91才 平成18年1月13日

☆聴聞表

去年の新年互礼会するとき、今年は何回ぐらいお寺に参れますかと聞いて回りました。12回の法座のうち10回ぐらい参りますとか、半分ぐらい参りますとか、色々な反応がありました。その中でできる限りお寺の法座には参りますという人が、何人かおられました。1年でお寺の法座は35回あります。それなら出席表を作ればよいという意見が出ました。それが励みになれば、楽しみで参れます。という事で始まった聴聞表 意外と好評で、皆勤賞の36回出席の人が古堀政子さんと植木弘子さんの二人、25回以上出席の精勤賞が12人、20回以上出席が24名と予想以上に沢山だったので嬉しい事です。ご褒美の皆勤賞と精勤賞は、手作りのお経本入れと念珠入れです。20回以上の人のバッジは隨泉寺のオリジナルです。今回残念ながら19回でもらえなかった人も、今年中には20回を越えるでしょうから、今年22回以上お参り頂くと二つももらえる事になります。今年皆さんが聴聞表を作ってください。そして今年以上に沢山の人がご褒美がもらえるといいですね。



☆「ダーナの日」募金

2月7日は本願寺の仏教婦人会を創設された九条武子さんの命日にあたります。

女子教育や社会福祉活動を通して女性の自立を勧め、関東大震災では先頭立って救済活動に尽くされた生涯を記念して「ダーナの日」が設けられました。

毎年 婦人会で募金をお願いしています。そのうち半分ぐらいを教区や安芸北組の仏教婦人連盟に納め、残りは安芸区の社協に送っています。



2月カレンダー

私一人のための如来様のお慈悲 東井 義雄

(注＝東井先生のお寺は、すこし高台にあって、周辺に住む人たちがお寺の下に横穴を掘って、地下水を引こうとします。これに激しい怒りの心がこみあげた東井先生は、その家にどなり込もうとされます。しかし、お勤めの最中、阿弥陀様のお慈悲を味わわれて、思い留められます。以下が、そのときの東井先生の想いです)

如来様のお働きは、死んでから。そんな先の事ではなかったのです。現在ただ今も、私の為によりそって働きづめに働いて下さっている。この光に導かれて、自分の恐ろしさに気がつかせてもらい、お勤めが終わりますと、下の家へおりていきました。下の家も、停電で皆んな寝ておりましたが、起きてもらいました。



「門徒の方に知らせてもらって、穴があいたという事を聞いてわしは腹が立って腹が立って寝られなんだ。寝られんままに、法律の書物を引っぱり出して調べて」と、一切の始終を話し、仲よく生きさせていただく道を話し合いました。(中略)腹の立っている真最中に、私に寄りそって、働きづめに働いて下さるお働きがあつて下さったんですね。

ご開山が、「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとへに親鸞一人がためなりけり」とおっしゃっておりますが、ご開山お一人のためということは、如来様のお慈悲は、私一人のため、皆さんお一人お一人に寄りそって、働いて下さっているということですね。校長先生が大勢の子ども達に、誰とはなしに話をしているような、そんなことではなかったんですね。一人一人に寄りそって、悲しんでいる時には一緒に悲しみ、腹の立てている時には口惜しかろうが、このことに目をさましてくれよと、一人一人に寄りそって、働きづめに働いて下さっているお働きとしていただく時、ただごとで無い。親鸞一人がためとおっしゃるのは、やっぱり私一人のための、私のお慈悲であったかと、いただかなかつたら、どんな尊い法も、私の幸せになって下さらんという事ですね。

ご開山に、出会わせていただきますね。

如来様のお慈悲に出会わせていただきますね。私のためのお慈悲と、出会わせていただきます。

不思議なお育てを頂いて 不思議なご縁を恵まれて

故 黒川みつ 平成18年1月13日往生

不思議なご縁で、遠い山形県米沢市曹洞崇の檀家に生を受けました。

みつ昭和15年5月隨泉寺門徒黒川家に嫁して頂きました。来てみますと稀にみる有難い浄土真宗の御門徒でした。お父様はこうや(染屋)をし、9人の女子、1人の男子を人間に出し、78才で還浄、お母様は49才で還浄しておられます。お説教が始まると、娘たちは忙しい忙しいと申しますと、お説教は月に1週間か5日しかないのだから、1日中の食事の用意をし、その他の仕事は、お説教の前後にせよとの仰せだったそうです。おかげさまで10人全員有難い御法義者になっておられます。みつは、6女クラお母さんに育てて頂きました。皆様はお母様のお腹の中から阿弥陀如来様の御本願をお聞かせになっておられますが、みつは人間に生まれさせて頂いて初めての聴聞です。むずかしく、さっぱりわからず長い間苦勞いたしました。

御講師様のまん前につれて行かれ、足が痛いばかり膝をくずすと隣から注意されました。高松悟峰和上様御遷化遊して一年足らずの時、みつ嫁いで来たのです。母クラ、悟峰和上様と、幼な友達だったそうで秀若様、クラさんと言う仲だったそうで、真宗学寮の秋の報恩講、春の記念講会とつれて行って頂き時には宿泊しての聴聞でした。

第二代 藤沢教声和上様、第三代 山本正念和上様、第四代 岩崎俊雄和上様、外多数の和上様、諸先生のお導きを頂き、いつの間にやら有難い阿弥陀如来様の御本願を、領受させて頂きました。米沢にいたのでは、せつかく人間に出してやったのに、可哀想でほっとけず、阿弥陀如来様黒川家に引っぱり込んで下さったのだつたと、毎日毎日感謝のお念仏の日暮しをさせて頂いています。南無阿弥陀仏。

合掌

2月は節分です。鬼の歌を一つ

浅原才市の歌

うちの嬢(かかあ)の 寝顔をみれば 地獄の鬼が そのまんま
うちの家にや 鬼が二疋(ひき)をる 男鬼に 女鬼
あさましや あさましや・・・・・・
なむ(も)あみだぶつ なむあみだぶつ なむあみだぶつ



わしのころは 迷いの角がはえております。わたしのころにあさまし あさまし あさましや